

ふじみ野こども エコクラブ新聞

2022年11月発行
ふじみ野こどもエコ
クラブ FUJIMINO
KODOMO ECO
CLUB
責任者:和田淑子
TEL:090-3517-1029

今年はずっと今までと違う活動もしましたので子どもたちに紹介していただきました

☆ ☆ ☆ ☆ ☆
田植え 佐々木さくら

こどもエコクラブでは5月に田植えをしました。

田んぼの中にはヒルがいるかもしれないので、ひざまである長いくつ下をはいて田んぼの中に入りました。田んぼの中に足を入れるとねんどみたいで歩くのが大変でした。歩く時は一歩ずつゆっくりに足をあげて少しづつ歩きました。とても暑い日だったので田んぼの水は冷たくとても気持ち良かったです。

苗を少しずつ分けて土の中に手を入れて植えていきました。苗と苗の間をそろえるのでロープを田んぼの両側

からひっぱって、ロープにあわせてみんなが1列になって植えていきました。どうして1列にそろえるかというと、田んぼに雑草が生えてきたときに、抜きやすくするためだそうです。

9月には稲が大きく育っていて、稲かりをしました。自分たちが植えた苗が大きく育っていてうれしかったです。左:田植え風景



☆ ☆ ☆ ☆ ☆
イネ刈り 能登原蓮

わたしは9月に初めてイネ刈り体験をしました。長そで、長ズボン、長ぐつのカッコウで軍手と水とう、かまを持って、自転車で乗ってエコパの近くの田んぼへ行きました。

その田んぼで5月のころに田植えをした時は、イネの葉っぱが真緑で、3〜4まいしかなくて、背もひくかつたけど、9月にイネ刈りしたときには、背も10まい以上になっていて、色も緑がうすくなっていました。イネ刈りをするとき、畑の人たちがかまの使いかたを教えてくださいました。とてもじょうずで使いかたがすぐわかりました。

イネ刈り風景(エコ田んぼ)



やごの救出(福岡小学校プール)



☆ ☆ ☆ ☆ ☆
やご救出大作戦 千葉蒼亮

5月24日僕は福岡小学校のプールに、やごを救出するために行きましました。やごとはトンボになる前の子供です。なぜやごを救出するかというと、プールの水をプール開きの前に抜くため、やごも一緒に下水に流されてしまからです。

プールの水が抜かれ、泥が残っていました。はじめはこの泥の中に入るのかと少し気持ちが重かったのですが、やごを取っていくうちに楽しくなってきました。やごを見たことがなかったのですが、泥をすくってよく見ると動いている虫がいて、これがやごだと分かりました。思ったより沢山いました。最後はみんな集めてそれぞれ持ち帰りました。集めた沢山のやごを見たときは一つのプールでこんなにいたのかと驚きました。やごを持ち帰り、赤虫を釣具屋さんで買ってきて餌としてあげました。育てるのが難しかったです。



畑と竹林の場所



畑はふじみ野高校グラウンドの東隣です。ふじみ野こどもエコクラブの看板が出ています。大井中学校テニスコート隣の竹林を整備中です。平日も火曜日と金曜日AM畑で作業していますので、お気軽に見学にいらしてください。待ってるよ～

エコクラブ紹介

こどもエコクラブは公益財団法人日本環境協会が運営し、埼玉県や多くの会社がある活動をサポートしている全国的な組織で、様々な活動を通じて子供たちに自然や環境について考えるきっかけを提供することを目指しています。

「ふじみ野こどもエコクラブ」は、小学校1年生以上、高校生までなら誰でも参加できます。もちろん、活動

に興味を持たれたお父さんお母さん達の参加も大歓迎です。今も多くの家族の方が参加なさっています。サポートも大勢いるので、「何も知らないけど大丈夫だろうか?」とでも大変なんじゃないか?」といった心配は無用です。また、色々な縛りは一切ありません。自由に気軽に参加できる団体です。

主な活動は①無農薬の野菜作り、②放置され荒れてしまった竹林の整備、③自然観察(バ

ードウォッチング、水生生物調査等)④自然の素材を使った工作の4つです。このほかにも色々な活動を企画しています。屋外に出て、風に触れ、木々のざわめきや鳥の声を聴きながら汗を流すのは気持ちの良いものです。日常生活では中々ない自然との触れ合いや参加者とのコミュニケーションを通じて、環境のことを、地球のことを思いを馳せてみませんか?ご参加をお待ちしています。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ 無農薬野菜作り

無農薬、出来るだけプラスチックを使わないで野菜を育てるのはとてもたいへんです。そのため、いろいろな工夫をしています。

①コンパニオンプランツを利用することで病気や害虫の被害にあいにくくなる、成長がよくなる、風味や味がよくなります。農薬を使わないとどうしても困る場合は炭を焼いたときに出る木酢液(もくさくえき)を使います。

②害虫に強い野菜を植えること。ネギ、ジャガイモなどがこれに当たります。

③できるだけよい土を作る。よい土とは、化学肥料を使わない、ミミズがすめる土です。ミミズは土の中を動き回るので土がやわらかくなり、植物にとってよいかんきょうになります。よい土では丈夫な野菜が出来ます。丈夫な野菜は病気や害虫にも強くなります。

無農薬野菜は安心して食べることができ、そしてなによりおいし安全な野菜を食べて

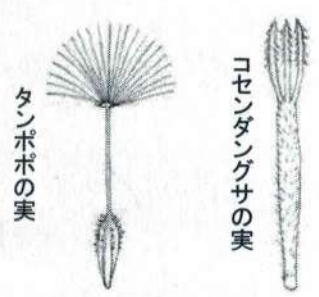
健康な体を作ってもらいたい。私たちの何よりの願いです。エコクラブの畑を見学、あるいは体験したい方、大歓迎です。ご連絡をお待ちしています。

旅をするタネ

植物は地面に根を張って、動くことができません。でもそんな植物にとっても一生に一度、動けるチャンスがあります。それはタネの旅です。

タンポポやアザミのタネはフワフワの綿毛を付けて、風に乗って長い距離を旅します。カエデのようにつばさを付けて風に乗るものもあります。

センダングサやオナモミはするどいトゲで動物や人にくっついて移動します。メナモミ



はネバネバする液を出してくっつきます。これらはヒツツキムシと呼ばれます。

キイチゴなどのタネは甘くておいしい実に包まれていて、鳥にこの実をタネごと食べてもらいます。そして鳥が飛んで行った先でフンと一緒にタネを出してもらおうことで、遠くに運ばれます。ドングリなども鳥や動物に運んでもらっています。

ハウセンカやカタバミのタネは実がはじけることで飛ばされます。これは数メートルの小さな旅です。

スマイレのタネも実がはじけて飛ばされますが、旅はこの後もまだ続きます。タネにアリの好物のゼリーのようなものも付いていて、アリに運んでもらうのです。

土の中で長い間眠るタネもあります。弥生時代の遺跡から発掘されたハスのタネが二千年の眠りから目をさまし、芽を出して花を咲かせた例もあります。時を旅していると言えます。タネを見つけたらどうやって旅するか、思いめぐらすと楽しいと思います。